

1 地域学を支えるコミュニケーション力に関する授業改善のポイント		
話す・聞く活動の充実		
低学年	中学年	高学年
・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を考えること。 ・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや早さなどを工夫すること。 ・話し相手が知らせたいことや自分の聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。	・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ・互いの立場や意図を明確にししながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
【参考：学習指導要領 A 話すこと・聞くこと】		
2 ICTの有効活用に関する授業改善のポイント		
1 個別最適な学び：一人一人の興味・関心、学習理解度に合わせて、自分のペースで学習を進める環境の実現		
2 共働的な学び：端末を通じて意見や考えを即座に共有し、他者と対話・協働しながら課題を解決する力の育成		
3 情報活用能力の育成：膨大な情報から必要なものを取捨選択し、整理・比較して発信するスキルと、正しい情報モラルの習得		

学年	児童の実態	課題	授業改善策
1	1 話に興味をもって最後まで聞くことができない児童が多く、視覚優位、聴覚優位等、児童によって理解力や理解の仕方の差が大きい。 2 分からないことを自分で調べようとせず、そのままにしたり、人に教えてもらおうとしたりする児童が多い。	1 先生や友達の話を集 trungして聞き、伝えたい言葉を明確にして、友達にはっきりと話すことができる。 2 「知りたい」という気持ちを大切に して、知るための手段の1つとしてタブレットを活用できるようにする。	1 国語の学習を中心とし、話の聞き方や人に伝えるための話し方を繰り返し練習する。また、すべての児童にとって理解しやすいよう発問の仕方(短く指示を出す、板書に残す、等)を工夫する。 2 タブレットタイムでオクリンクプラス等の使い方の基礎を指導する。生活科の調べ学習時に、児童用タブレットを積極的に活用する。
2	1 インタビューで、相手が話す内容をメモにすることが難しい児童が多い。 2 たくさんの情報の中から必要な項目を選び出すことが難しい。	1 相手の話の大切な内容を落とさないように工夫して話を聞くことができる。 2 タブレットを活用した情報の収集が適切にできる。	1 大切な事柄を抑えてメモを取る機会を多くもつ。それをもとに、一人一人が感想をもち、伝える活動を取り入れる。 2 町たんけんでの画像素材から必要なものを選んで、発表時に活用できるようにする。
3	1①話合いで自己中心的な態度が見られ、友達の意見を尊重して聴く姿勢が不十分である。 ②感情表現に必要な語彙が乏しく、場に応じた適切な言葉遣いができていない。 2①ICT 機器への関心は高いものの、学習ツールとしての使用目的が限られている。 ②読解力が不十分で、文章題の状況が読み取れず立式につまずく児童が半数程度いる。	1 一人一人が大切な存在であることを意識し、話している友達に向き合うことができる。そして、適切な言葉を用いて自分の思いや考えを伝えることができる。 2 学習を支える補助的な道具としてタブレットを活用できる。	1 相手の発言を最後まで聞き、受け止めてから自分の意見を述べる対話ルールを設定する。互いの考えを尊重し合いながら、自分の意見を整理して深める姿勢を定着させる。 2 算数などにおいて、文章からの立式が難しい児童に対し、ヒント表示や図形を動かせるアプリを活用する。各自のペースに合わせて視覚的に数量関係を捉えさせ、理解度に応じたステップで自力での立式をサポートする。
4	1①相手意識が低く、伝える相手のことを考えて順序立てて話す力が乏しい。 ②知りたい気持ちが先行してしまい、聞きたいことの中心から話がそれてしまう。 2 情報の取捨選択がうまくできず、調べたことを丸写ししてしまう。	1 相手意識をもって話したり質問したりすることができる。また、話の中心を意識してコミュニケーションを取ることができる。 2 調べたことを取捨選択し、自分の意図に合った情報を選ぶことができる。	1 話す・聞くの学習だけでなく、読む・書く学習においても相手意識をもたせて活動に取り組ませる。 2 国語の要約の学習を基に、社会や総合的な学習の時間の調べ学習の際に、分かったことをまとめたり選んだりする活動を繰り返し行う。
5	1 お互いに話合いやインタビューを通して、考えを深めることが苦手である。 2 情報の収集・選択ができず、情報の丸写しを	1 相手が伝えたいことと自分が聞きたいことを比べ、自分の考えを広げたり、深めたりできる。 2 たくさんの情報から必要な情報だけを取捨	1 様々な学習においてペアで話し合う活動を取り入れる。その際、自分の考えをもちやすいテーマを設定し、意見を出し合う。互いの意見を聞くことで、自分の考えをまとめるよ。 2 いくつかのサイトを比較し、自分の考えに近

		しているため、情報を活かして自分の考えを広げたり、深めたりすることに結び付いていない。	選択、整理し相手に分かりやすく発信できる。	い情報を見付けるように促す。 自分の考えに必要な情報だけをサイトから見付け、自分の考えを書けるように支援する。
6		1 資料を効果的に活用し、説得力をもたせて自分の考えを表現することが難しい。 2 膨大な情報から必要なものを取捨選択することができない。	1 説得力のある表現を目指して、資料を効果的に活用できる。 2 伝えたいことを説明するために、必要な情報を収集・整理することができる。	1 資料のどこに注目したかを言語化し、根拠と理由を意識して話すように促す。 2 課題を明確にし、解決に必要な言葉を限定させていく。
専科	音楽	1 合奏練習後、静かに振り返ることができない。 2 音楽を形づくっている要素の知覚・感受ができる児童は多いがそれを言葉で整理したり知識として定着させたりすることに、やや課題がある。また与えられた課題を基に自分の思いや意図をもって学びを調整しながら粘り強く取り組むことが難しい児童がいる。	1 合奏練習後、自分の演奏を振り返るため、教師の話を集中して聞くことができる。 2 音楽にしっかり向き合い、感じ取ったことを言葉で表現したり、知識として整理したりすることができる。	1 合奏前に、終了後静かに振り返る時間をもつことを繰り返し指導し、習慣化できるようにする。 2 学習カードで児童の思考を丁寧に見取るとともに学び合いの場を充実させ、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて自分の考えをもつことができるようにする。
	理科	児童たちは意欲的に取り組み、対話を通して沢山のことを学び取っている。しかし、児童の中には実験の仕方がよく分からなかったり結果をどう捉えたらよいか判断に迷ったりする姿がある。	教師の説明から実験の目的や方法を正しく理解し、実験結果を科学的事象に基づいて適切に捉えることができる。	事前に実験の目的や方法を自らじっくり考え検討しあう時間を保障する。やや複雑な実験では段階を踏んで行わせ、その都度意味を押さえながら次に進められるようにする。
	算数	1 課題解決のためにどのような考えたかを説明することが困難な児童が多い。また、説明しようとする活動に消極的な児童が多い。 2 タブレットを活用して練習問題を選択したり、理解を深めるために図形を操作したりする児童が少ない。	1 言葉・式・図を用いて、自分の考えをまとめ、友達と伝え合うことができる。 2 自分に必要な練習問題を選択、活用を通して、問題を処理する技能を高めることができる。	1 式や図を用いることも算数では可能であることを伝え、説明のパターンを示したり、使ってほしいキーワードを提示したりして、説明に取り組みやすくする。また、ペア学習から始め、友達に説明する活動を、これまでより多く取り入れるようにする。 2 自分の状況を見て、どの問題に取り組めばよいかを示して、選択肢が分かるように伝えておくようにする。
	図工	1 前向きに自分の思いをもちながら創作活動をしているが、さらにイメージを深めたり、作品について言葉で表現したりする場面で滞る児童がいる。	1 創作活動において、イメージを深め、自分の作品について自分なりの言葉で表現できる。	1 視覚的な資料の提示や鑑賞活動の工夫をする。文章で自分の思いを表現する場合は、作品について物語を考えるように促し、考えを深めながら表現できるようにする。